# 授業レポート「ICT 活用を含む『主体的・対話的で深い学び』の研究実践を振り返って」

宮崎県立○○○○高等学校　教諭　○○○○
（教科：水産）

## 1．公開授業の研究協議にて参加者から出た意見　および　「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う上での留意点（手立て）

公開授業後の研究協議にて参加者から出た意見，および「主体的」「対話的」「深い」学びそれぞれの観点で，自身が授業を行う上で実践できていたことを以下にまとめた。（★は実践できていなかった部分，改善点等）

| 『主体的な学び』のための手立て（生徒自身が「学びたい」「考えたい」「発表したい」と感じ，学びの空間にいることができる） | | 『対話的な学び』のための手立て（生徒 対 生徒･教師･教材･自分自身・・・何と対話をするかをコーディネートする） | | 『深い学び』のための手立て（一度覚えた“つもりになっている”段階で完結せず，確認・検討・評価・振り返りができる） | |
|---|---|---|---|---|---|
| レディネスの把握 | 生徒の日常的なレディネス把握に基づく，学習目標の設定，学習活動の構想 | 学習形態 | 個人，グループ（３人班），全体の学習形態を駆使する（それぞれの良さを把握し，使いこなす） | 単元・題材計画 | ２→３限目と連続した授業時間の効果的な活用，考えの広がりと深まりによる，知識ネットワークの形成と強化 |
| 単元・題材計画 | ３年間を見通した資質・能力を育成する構想に基づく，これまでの経験を生かした段階的な学習計画 | 発問・指示 | 答えが一つの形に定まらない「問い」の工夫，分かりやすい説明を目指した「自分の言葉」のぶつかり合い | 提示教材① | ICT の効果的な活用（普段見ることのできない水中や空撮の映像） |
| 評価計画 授業計画 | ルーブリックによる学習の道標の提示（学習目標の具体化，生徒の学習状況の自覚化） | 学習空間の雰囲気作り | 全体で，他者の考えを静かに聞く場づくり（発表を聞いて，自分の考えと自己内対話させる貴重な時間） | 提示教材② | 新しく入手した知識・概念を応用した発問，班員との協働 |
| 提示教材・配布教材 | アンケートによる「自分たちの現状」を認識させる手立て，グラフ等による生きた確かな情報の提示 | 単元・題材計画 | ２→３限目と連続した授業時間の効果的な活用，考えの広がりと深まりによる，知識ネットワークの形成と強化 | ★提示教材③ | ★本校他科目との関連性，地域の水産業との関連データの提示 |
| 聞き取り・見取り・見極め | 全員が内容と目標を理解できたかを確認する準備 | 評価計画 授業計画 | 授業の最後に，改めて自己内対話（理解できたか）をする機会の確保（振り返り，まとめ，アンケート記入） | ★授業構成 | ★各班の発表時間の確保 |
| ★授業構成 | ★個人で「仮説」を立てさせた後に班活動をすることで，より主体的な学習となる | その他手立て | ・プリントに記入する部分をスライドに明示（鉛筆マーク）することによって，スライドを注目する時間と，プリント記入の時間を明確に分けられた。 | | |

## 2．「教科の特質に応じた見方・感じ方」を働かせた授業実践について考えたこと

水産という専門教科の特性上，職業で必要とされる知識や技術を習得させるため，実物を見たり，体で経験する等の実習に重きを置く必要がある。そのため，実習に基づく経験を全て ICT で代替することは不可能であると考える。専門教科の授業ではなるべく実物と触れさせ，その前後の指導の中で普段見られない部分を ICT の活用によって理解を深め，実習と座学をリンクさせることが最も効果的と感じる。今回の授業でも，なるべく実物（放流のために標識されたヒラメ）を授業で提示する等の工夫を行った。